

日本農業技術検定

試験日

第1回

7/6_土

第2回

12/7_土

応募期間

第1回 4月25日_木～ 5月31日_金
第2回 9月30日_月～ 10月31日_木

受験級

第1回	3級	2級	
第2回	3級	2級	1級



JAの経済事業改革は 職員のスキルアップから!

JAの営農指導力のスキルアップには2級・1級を!
JA一般職員には農業の基礎知識修得のための3級を!



日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業をめざす学生や社会人などを対象に、教育研修の効果を高めることを目的とした農業専門の全国統一の試験制度です。

農業をめぐる環境が厳しさを増すなかで、本検定は農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定しますので、JAの営農指導者には2級・1級の受験で営農指導のスキルアップ、一般職員には3級受験により農業一般の基礎知識の修得に役立ちます。JA県連グループで本検定の受験活用に取り組むところもあります。

実施主体

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)
<https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>





日本農業技術検定 概要

第1回

2024年7月6日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月25日(木)~ 5月31日(金)

第2回 9月30日(月)~10月31日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

[2023年度優秀表彰団体] ※農業高等学校の部を除く

[3級] JAの部/最優秀団体: JAみなみ信州、優秀団体: JAふじ伊豆、JA福岡市、JAあいら

[2級] JAの部/最優秀団体: JA香川県

農業大学校等の部/最優秀団体: アグリノベーション大学校関東校、優秀団体: 山形県立農林大学校、埼玉県農業大学校、専門学校山梨県立農林大学校、新潟県農業大学校、アグリノベーション大学校関西校、兵庫県立農業大学校、合同会社近代農業研究会
大学の部/最優秀団体: 鳥取大学農学部、優秀団体: 日本大学生物資源科学部、龍谷大学農学部、佐賀大学農学部、東海大学農学部、南九州大学環境園芸学部

●JA新はこだて、JA東京中央、JAマインズ、JA東京あおば、JAcanaがわ西湘、JA梨北、JAぎふ、JAふじ伊豆、JA遠州夢咲、JA石川県中央会、JA長野中央会、JA上伊那、JA木曾、JAあづみ、JA信州諏訪、JA佐久浅間、JAみなみ信州、JA松本ハイランド、JA大阪泉州、JA大阪南、JAいづみの、JA丹波ひかみ、JA兵庫六甲、JA和歌山中央会、JA香川県、NOSAI香川、JA福岡中央会、JA粕屋、JA福岡市、JA糸島、JAふくおか八女、JA柳川、JA福岡京築、JA長崎せいひ、JAくま、JA大分県、JAべつが日出、JAあいら、JAおきなわ、では営農指導力の向上や一般職員のキャリアアップを目的に団体受験を実施しています。

県連グループとして、営農指導員上級資格の要件の一つとして、一般職員は全員3級資格を取得する取り組みを進めるところもあります。

●拓殖大学北海道短期大学、酪農学園大学、宮城大学、秋田県立大学、茨城大学、高崎健康福祉大学、玉川大学、東京農業大学(神奈川、北海道)、日本大学、静岡県立農林環境専門職大学、名城大学、新潟食料科学大学、信州大学、龍谷大学、京都先端科学大学、摂南大学、鳥取大学、県立広島大学、佐賀大学、東海大学(熊本)、大分短期大学、南九州大学、宮崎大学、琉球大学、では大学生の団体受験を進めています。多くの大学では学生が元々農業経験もないため、大学での農学習得の補強手段として活用されているほか、日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験に取り組んでいます。

●本検定の上位資格は、一定の農業に関する実務的知識を習得していることの証明になります。

第2回

2024年12月7日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

受験料(税込)

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,140円	2,620円	1,570円
2級	4,190円	3,350円	2,090円
1級	5,240円	4,190円	2,620円

※複数級受験割引=学科の「3級と2級」又は「2級と1級」を同一検定日に受験の場合、受験料を1,000円割引。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1級、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、1級・2級実技試験は免除措置があります。詳しくは本検定ホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問。ただし、「環境系」は、環境共通10問と3分野(造園、農業土木、林業)の各10問から1分野選択 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: 農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業一般として共通10問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	

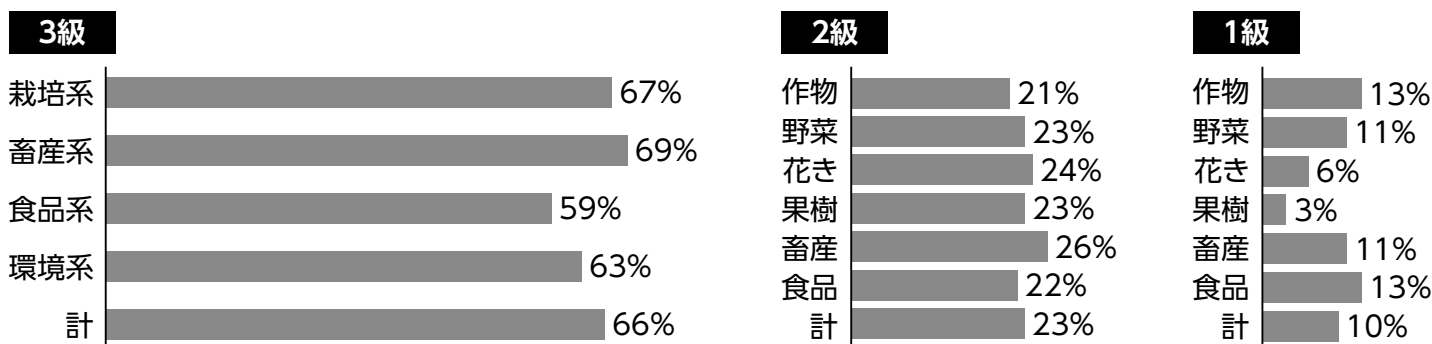
日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(2018～2023年度)

(受験者数
合格率)

	3級	2級	1級	合計
2018年度	20,521人(62%)	5,365人(20%)	247人(9%)	26,133人(53%)
2019年度	19,992人(59%)	5,311人(23%)	266人(7%)	25,569人(51%)
2020年度	18,790人(66%)	3,015人(21%)	206人(7%)	22,011人(59%)
2021年度	20,939人(66%)	5,908人(23%)	265人(5%)	27,112人(56%)
2022年度	17,932人(63%)	5,024人(21%)	243人(13%)	23,199人(54%)
2023年度	17,573人(66%)	4,447人(23%)	261人(10%)	22,281人(57%)

②科目別合格率(2023年度)



③合格基準

[3級] 100点満点の原則60%以上

[2級] 100点満点の原則70%以上

[1級] 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証明書が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技試験免除

2級実技試験(ほ場での農業機械についての実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での所定の農業機械等の農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上の講習を修了していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

*農業機械の実習証明に必要な講習会については、本検定ホームページをご参照ください。

②1級実技試験免除

1級実技試験(12月の1級学科試験と同日時に実施)は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。農業系の学校等での農場実習等4単位取得者又は2年以上の営農実務経験を有する方は免除が可能となります。詳細は本検定ホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは
ホームページから

<https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

①一般受験

個人がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

雇用就農資金支援対象の雇用就農者は、都道府県農業会議が受験者を取りまとめてインターネットで申し込む。

*受験料の振込先口座番号は受験者(団体)別になっており、毎回変わります。所定の振込口座へ、応募期間内に受験料をお振込みください。

②団体受験

学校・JA・農業法人など要件(受験者5名以上、試験会場を提供、試験官1名以上担当など)を満たす実施団体がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は本検定ホームページをご覧ください)

テキスト・参考書を活用して、①過去問題集を解いて出題傾向をつかむ。②過去問題集の解説やテキスト、高等学校農業用教科書で問題を確認する。③自分の苦手な領域を重点に②の確認を行う。④類似した出題もあるので過去問題集を何度も学習する一などの勉強方法も効果的です。

3級

- (1) 2024年版過去問題集3級 (発行)全国農業会議所
*2021年度、2022年度、2023年度試験問題6回分を収録
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

2級

- (1) 2024年版過去問題集2級 (発行)全国農業会議所
*2023年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
*2級テキストの全面改訂版は、刊行予定が決まり次第、ホームページでご案内します。
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

1級

- (1) 1級学科試験問題…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
*2021、2022、2023年度試験問題、年度毎に実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級参考図書…農業関係出版社

*1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧の上、日本農業技術検定協会事務局宛(kentei@nca.or.jp)にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

*テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666

2024年版
日本農業技術検定
過去問題集
(2級・3級)
好評販売中!

JAにおける団体受験の取り組み紹介

JAグループにおける日本農業技術検定への取り組みは、当初は九州の一部JAだけでしたが、徐々に自主的に取り組むJAが増加して、令和3年度には全国52JA、約1,800人の受験がありました。その後、JAの合併が進み、資格取得者も増えてきたこともあり、受験者も減少傾向にあります。令和5年度は39JA、約1,000人が受験しました。

JA関係者の受験は、JAの営農指導員による2級、1級の専門級受験だけでなく、県中央会の主導による営農指導員を対象とした上位級受験に加えて、職員教育の一環として広く一般職にも3級受験を推奨する県連も増えています。また、人事制度評価に本検定資格を導入し、キャリアアップのために受験を奨励して職員の資質向上につなげるJAもあり、JAでの本検定の活用場面も広がりをみせています。

JA長野県グループでは、営農相談員資格という独自制度の条件に本検定の3級取得を加えることとし、初年度となる元年度には県下11JA、314人も受験がありました。

このうち、JA上伊那では、「営農部門以外の職員を含めて全職員がスタンダードレベルの農業知識をもって組合員とコミュニケーションをとる」という基本方針を掲げ、①営農相談員資格取得と、②正職員を対象とした農家体験実習を2本柱として、職員の意識改革を進めています。

JA香川県でも、令和元年から、新規採用職員や若年層職員を中心に農業に関する基礎知識を身に付けるため、県内の農家での農業体験のほか、35歳未満の職員を対象とした3級受験に取り組んでいます。元年度には294人が受験し、5年度には上位級を含め82人の受験がありました。

私達も応援しています! — 日本農業技術検定への協賛企業・団体



日本農業技術検定に関するお問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2階

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3265-5140 e-mail:kentei@nca.or.jp

日本農業技術検定協会
構成団体

(一社)全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社)日本農業法人協会、(一社)全国農業改良普及支援協会、(公財)農民教育協会、(公社)国際農業者交流協会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)全国農協観光協会、(一社)農山漁村文化協会、(一社)全国農業会議所【事務局】